

【取組内容】



- 有効活用できていない漂着プラスチックや複合材プラスチックを特殊ボイラの燃料に活用し、クリーンエネルギーを供給することで、プラスチック処理及び化石燃料問題へ同時にアプローチする独自の循環型モデルを構築。
- 漂着プラスチックに悩む自治体や、使用済プラスチックの処理・リサイクルを外部委託している企業が、当該ボイラの導入により自ら廃棄プラスチックを有効活用することができる地産地消の取組。
- 有識者や漁業関係者等、多様なステークホルダーと連携し当該モデルを展開。観光需要の発掘等、本取組と関連した地域内の新規事業の創出にも繋げる。

【評価ポイント】

- プラごみの削減及び海洋流出防止に加え、温室効果ガス排出減少にも寄与。

SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性	廃棄物の有効化とエネルギー補填に対応した本取組は、国内外で共通する課題に対応しており、ロールモデルとなり得る。
包摂性	世界共通課題である温暖化及びエネルギーアクセスに対応し過疎地域の雇用創出にも貢献。「誰一人取り残さない」理念を体現。
参画型	自治体、企業、有識者、漁業関係者等、広範な関係者と連携し、当該モデルを展開。
統合性	利用団体に過重負担とならない小型ボイラの導入により、プラごみ及び温室効果ガスの削減に寄与する統合的な取組。
透明性と説明責任	水産庁の実証事業の報告書公開や自社HPにおける公表及びプレスリリースを行う。

